



ビットコイン その2

——一方、使える店やサービスは増えており、日本も資金決済法を改正して通貨に準ずる扱いにしました。この動きのギャップは、どう考えればよいですか。

「値上がりしているので事業者が受け入れを始める一方、人々は値上がり益を期待して貨幣としてはあまり使わない、という矛盾が起きています。もちろん、価値が下がると思い始めたら人々は急いで貨幣として使おうとするでしょうが、その時、事業者は受け入れを続ければ損をするので、受け入れをやめるはずですが、ただ、投機家はこうした動きのタイムラグを見越し、だれかがババをつかんでくれると思って投機をしているのかもしれない。現実にも多少なりとも支払い手段として使われている以上、対応した法整備は必要ですが、それが貨幣になることを保証しているわけではありません」

——何が貨幣になるとは、簡単なことではないのですね。

「貨幣が貨幣になるまでのプロセスは複雑で、様々な可能性があります。ただ、多くの人が交換手段として受け取ってくれるという安心感がじわじわと広がらないと貨幣にならない以上、非常に長い時間を要します。たとえば日本の和同開珎も、8世紀にいきなり朝廷が流通させようとしたのですが、定着しませんでした。ところが12世紀になり、日本海側で中国や朝鮮との貿易が広がると、唐銭や宋銭といった中国の貨幣が日本でも流通し始めたのです。世界の基軸通貨も、米国が19世紀末に国力で英国を超えた後も、しばらくはポンドのままです。半世紀かけて、世界中の人が他の人もドルで決済していると安心するようになったからこそ、第2次世界大戦後にはドルになったのです」

——中国は昨夏、ビットコインの取引所を閉鎖しま

した。

「発行するだけで『無から有』を生み出せる貨幣は、昔は王様の重要な収入源でした。現代では、人々を一つの貨幣圏に囲い込むことで、国内市場を統一し、政府や中央銀行の統治力を高める効果もあります。日本でも、明治政府が藩札を廃して単一通貨としての円を導入したことが、国内市場の形成に大きな役割を果たしました。中国政府が取引所を閉鎖したのは、人民元を通じた自国の統治力を守る動きにほかなりません」

——ビットコインは、ネット上で取引記録を共同管理する仕組みで、通貨の管理者だった中央銀行が不要になるとも言われました。

「デジタル通貨にとって課題だった偽造や二重払いの防止を、ブロックチェーンと呼ばれる革新的な技術でクリアしており、機能的には貨幣に求められるものをすべて備えています。しかも、紙幣や硬貨より送金コストが低く、預金の管理費用も低くなった。それでも私は、貨幣価値の安定には中央銀行のような公的な存在が必要であり、中央銀行を不要とすることを目的としたビットコインは、万一貨幣になっても長期的には滅びると考えています」

——貨幣になったとしても滅びる、とはどういう意味ですか。

「貨幣は、だれもが『他人も貨幣として受け取ってくれる』と予想するから貨幣として受け取る、という自己循環論法で価値を持ちます。従って、その予想が危うくなるとだれも受け取ろうとしなくなり、その時、貨幣は貨幣でなくなる。これがハイパーインフレですが、このような不安定性は貨幣の原罪であり、貨幣経済に生きる限り、その可能性から絶対に逃れられない。 (続く)